

アンケート調査結果

1. 調査の概要

1) 調査の対象、配布部数や方法、結果回収等

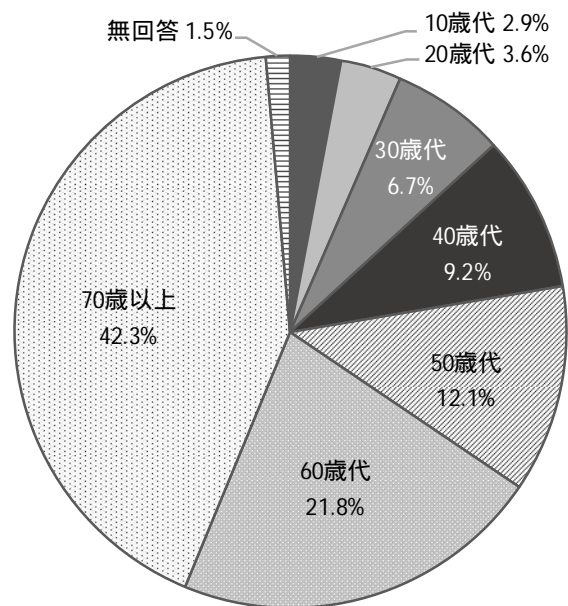
	市民	事業者
調査対象	15 歳以上の市民を無作為	83 社
配布部数	1,000 部	83 部
配布及び回収方法	自記入による郵送調査法	
実施期間	令和元年 5 月 20 日 ~ 令和元年 6 月 5 日	
回収結果 (回収率)	478 (47.8%)	61 (73.5%)

2. 調査結果

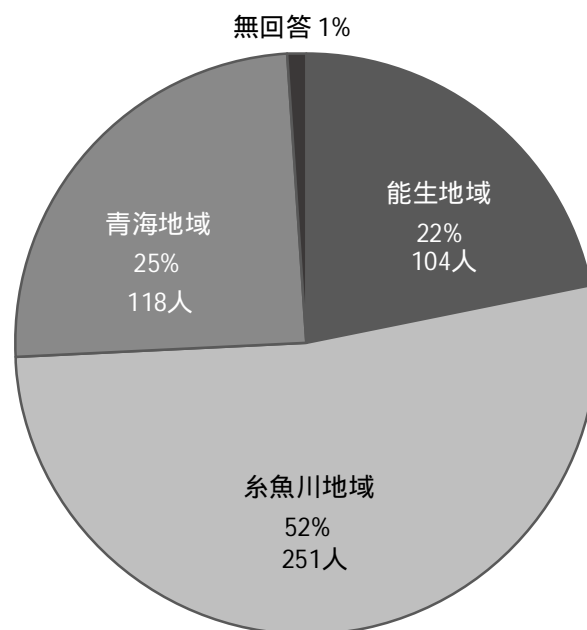
2 - 1 市民アンケート調査の結果

問1 回答者の属性

1) 年齢



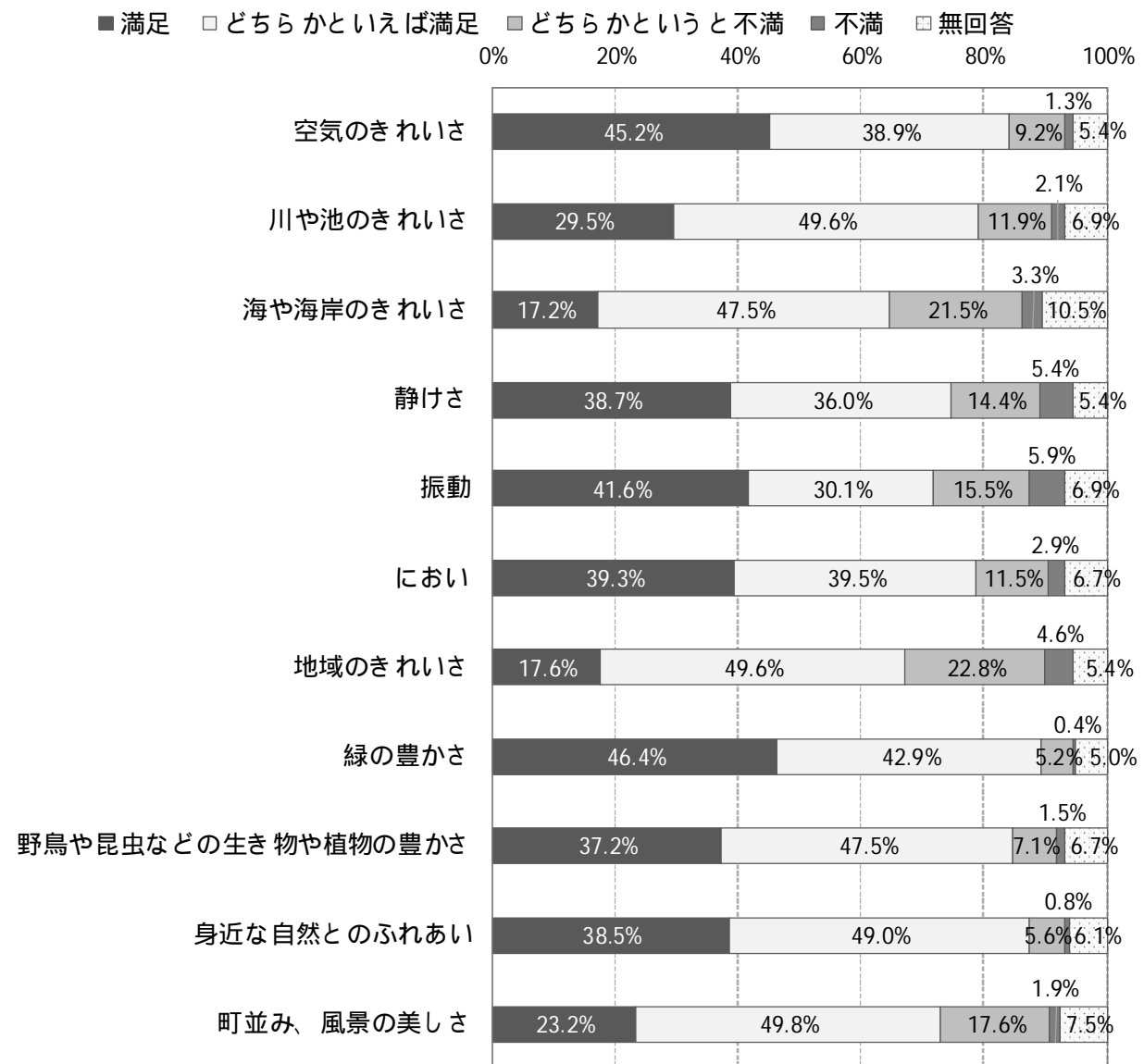
2) 居住地



問2 お住まいの地域の環境について

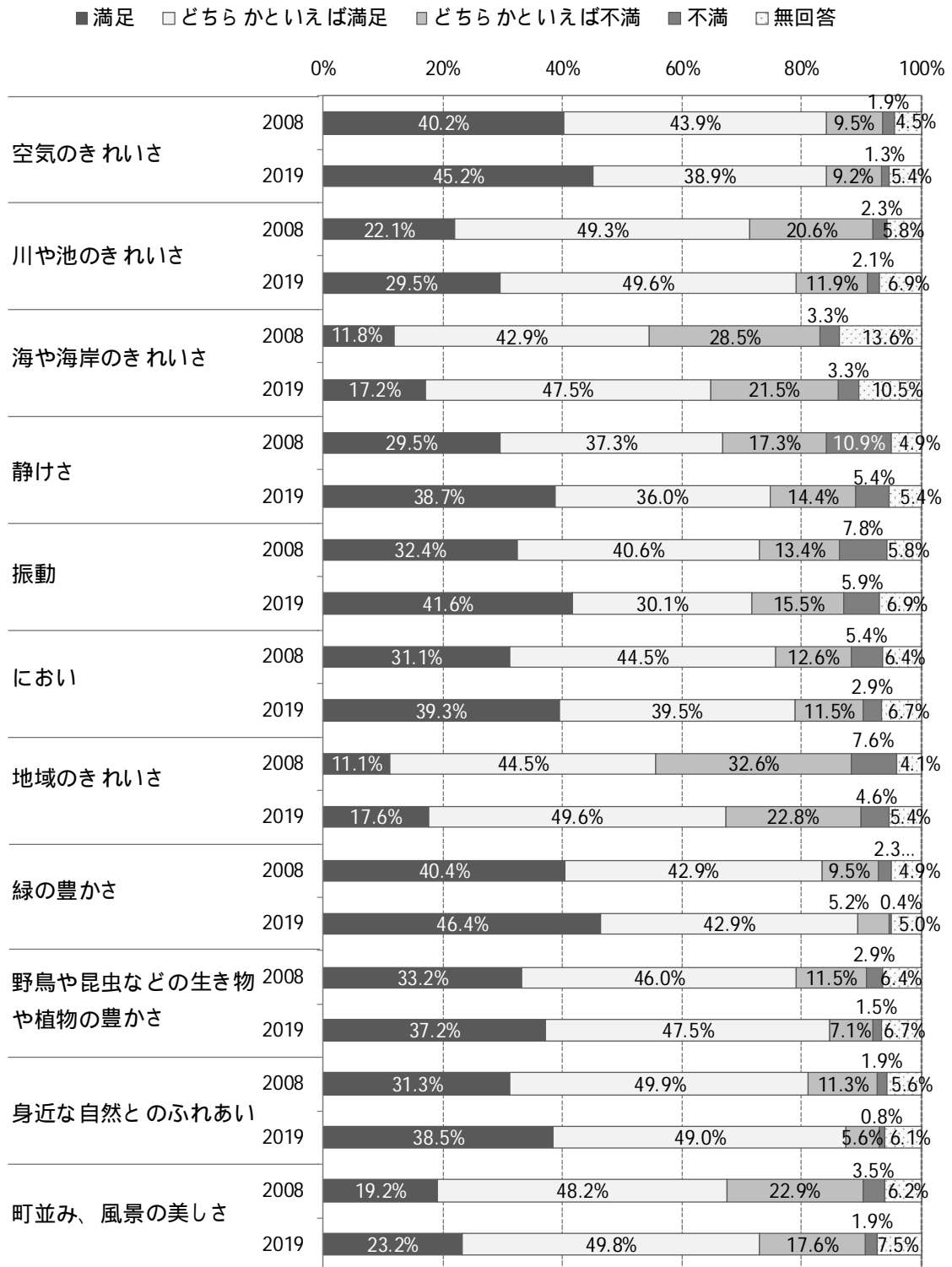
居住地の環境の満足度については、すべての項目で「満足」と「どちらかといえば満足」を合計した割合が6割以上になりました。特に「空気のきれいさ」「緑の豊かさ」「野鳥や昆虫などの生き物や植物の豊かさ」「身近な自然とのふれあい」は8割以上と高くなりました。

「海や海岸のきれいさ」「静けさ」「振動」「地域のきれいさ」は「どちらかといえば不満」と「不満」を合計した割合が2割以上となりました。



問2 お住まいの地域の環境について（2008(平成20)年と2019(令和元)年との比較）

2008(平成20)年と2019(令和元)年を比較すると、「空気のきれいさ」「振動」を除くすべての項目で「満足」「どちらかといえば満足」を合計した割合が上昇しています。特に、「海や海岸のきれいさ」「地域のきれいさ」は2008(平成20)年時点で6割未満でしたが、1割程度改善しています。



問3 大切にしたい系魚川の自然や風景、文化財や歴史的資源

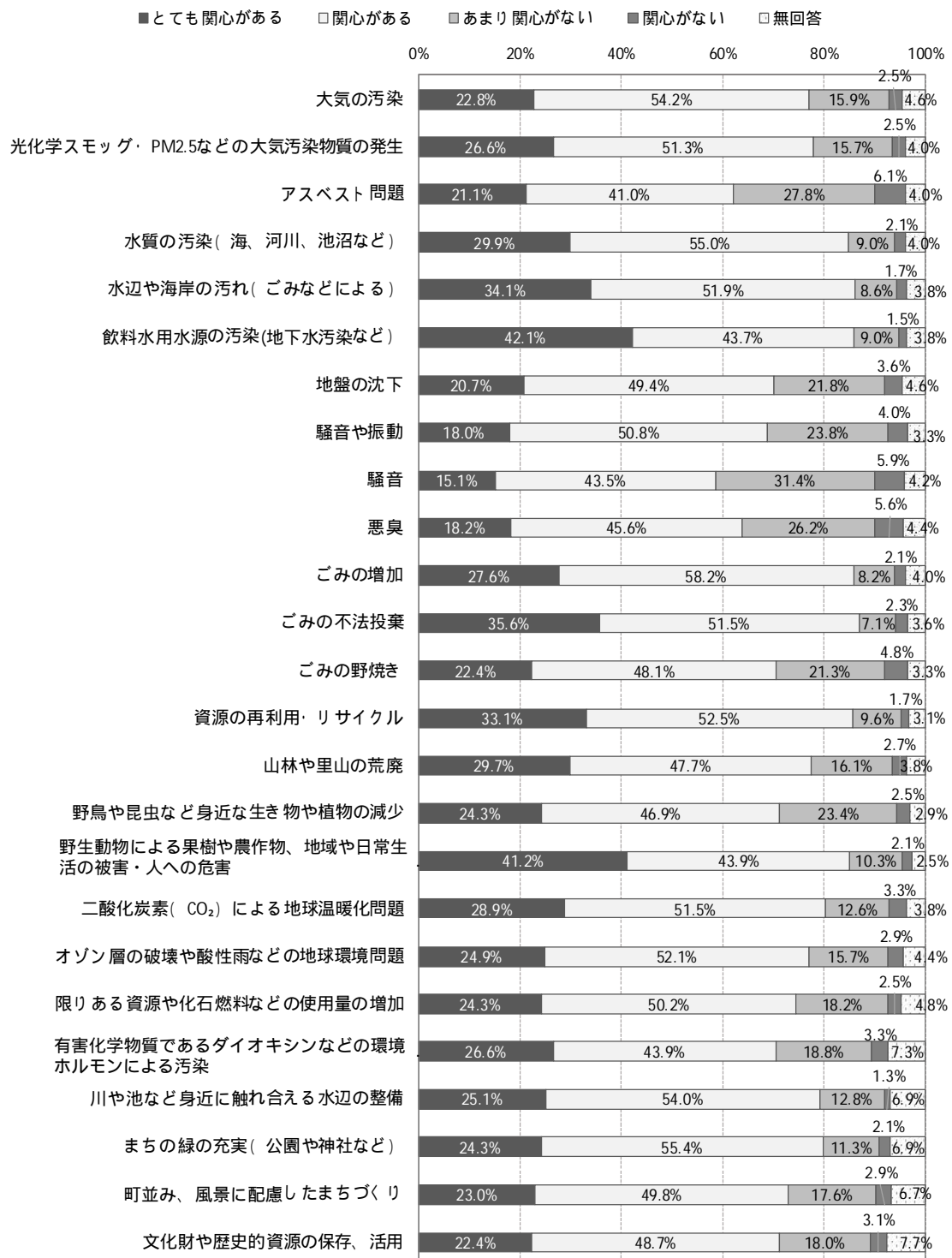
「塩の道」が最も多く、次いで「ヒスイ峡」、「月不見の池」、「美山公園」、「高浪の池」等になりました。

項目	回答数
塩の道	25
ヒスイ峡	24
月不見の池	20
美山公園（桜並木など）	18
高浪の池	18
田海ヶ池	15
不動滝	14
日本海の景観	13
弁天岩	12
しろ池	10
ブナ林	10
日本海に沈む夕日	9
須沢水芭蕉	8
白山神社	8
海谷溪谷	7
ヒスイ海岸	7
姫川堤桜並木	7
親不知	6
棚田	6
マイコミ平	5
明星山	4
黒姫山	4
三峡パーク	4
城山	4
森林公園	4
梅海新道	4
八十八ヶ所	4
美山	4
ラベンダービーチ	4
姫川	4
合計	282

問4 環境問題に対する関心度について

居住地の環境の関心度については、「とても関心がある」と「関心がある」を合計した割合が「騒音」を除いて6割以上になりました。特に「水質の汚染」「水辺や海岸の汚れ」「飲料水用水源の汚染」「ごみの増加」「ごみの不法投棄」「資源の再利用・リサイクル」「野生動物による果樹や農作物、地域や日常生活の被害・人への危害」「二酸化炭素(CO₂)による地球温暖化問題」は8割以上と高くなりました。

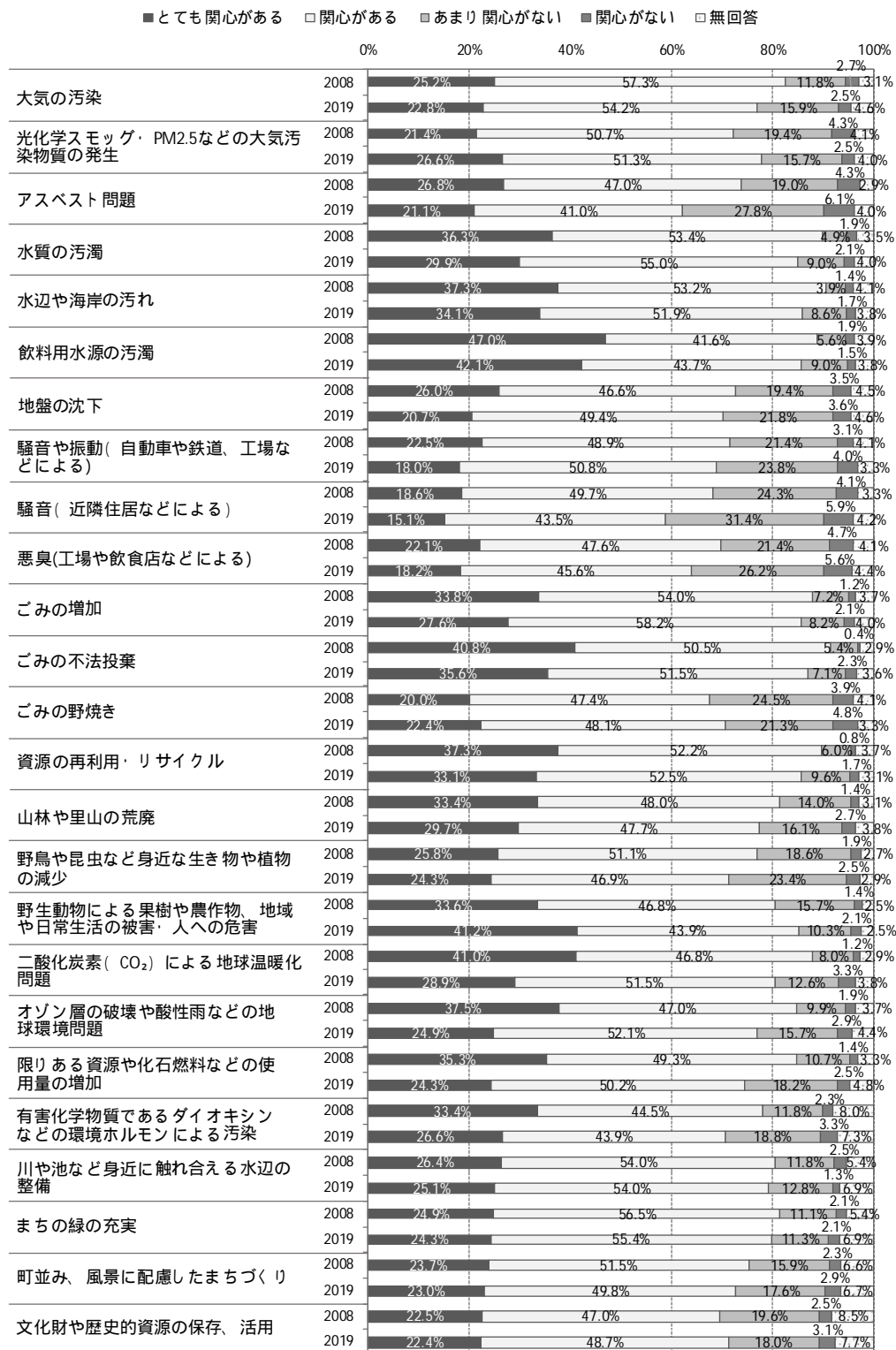
「アスベスト問題」「騒音」「悪臭」は「あまり関心がない」と「関心がない」を合計した割合が3割以上となりました。



問4 環境問題に関する関心度について（2008(平成20)年と2019(令和元)年との比較）

2008(平成20)年と2019(令和元)年を比較すると、「とても関心がある」と「関心がある」との合計の割合が、「光化学スモッグ・PM2.5などの大気汚染物質の発生」「ごみの野焼き」「野生動物による果樹や農作物、地域や日常生活の被害・人への危害」「文化財や歴史的資源の保存、活用」の4項目で上昇しています。

「アスベスト問題」「限りある資源や化石燃料などの使用量の増加」の2項目は低下しています。



問5 将来までには解決したい糸魚川市の環境問題について

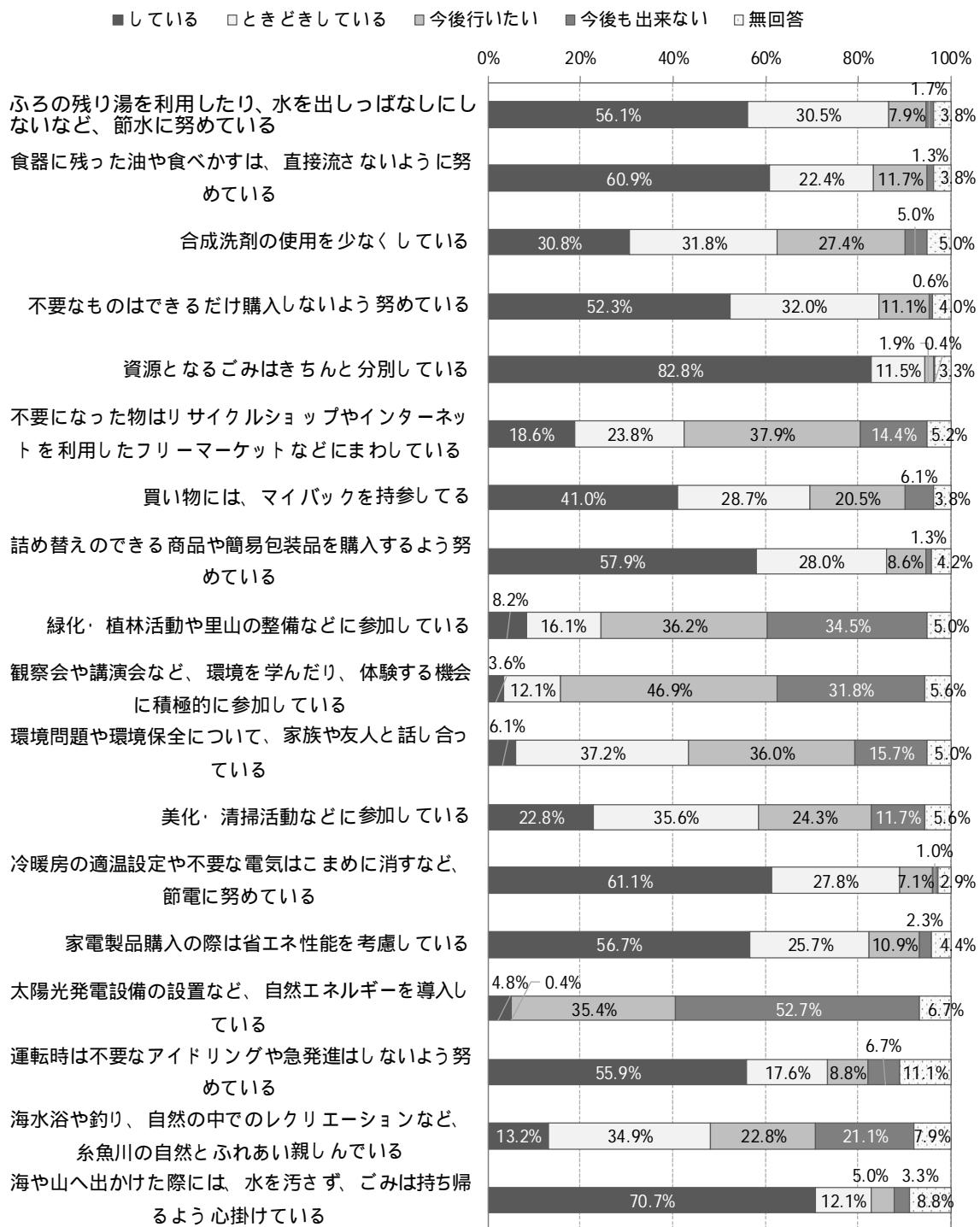
廃棄物問題・循環型社会の項目の「ポイ捨て・不法投棄」が突出して多く、ポイ捨て対策や不法投棄対策の重要性がうかがえる結果となりました。また空き家の管理についても問題視されています。

項目	内容	回答数
騒音・振動・悪臭	工場の悪臭	4
	車の排気ガス	2
廃棄物問題・循環型社会	ポイ捨て・不法投棄	63
	分別の徹底	5
	ごみの減量化対策	3
	野焼き	3
	海岸漂着物	5
開発問題・自然保護・生態系問題	山林や田畑の荒廃	8
	海岸の浸食	3
	河川の整備	3
	鳥獣被害	5
	外来種問題、野ねこ問題	2
地球温暖化・気候変動問題	地球温暖化	2
自然とのふれあい等	空き家の管理	16
	雑草の管理	7
その他	街灯の不足	2
	休耕田の増加	2
	少子高齢化	4
	ペットのフン放置	2

問6 環境にやさしい取り組みの実施度について

環境にやさしい取り組みの実施度について、「している」「ときどきしている」を合計した割合は「資源となるごみはきちんと分別している」が94.3%と最も高く、次いで「冷暖房の適切設定や不要な電気はこまめに消すなど、節電に努めている」が88.9%となりました。

「太陽光発電設備の設置など、自然エネルギーを導入している」が5.2%と最も低く、次いで「観察会や講演会など、環境を学んだり、体験する機会に積極的に参加している」が15.7%となりました。



問6 環境にやさしい取り組みの実施度について(2008(平成20)年と2019(令和元)年の比較)

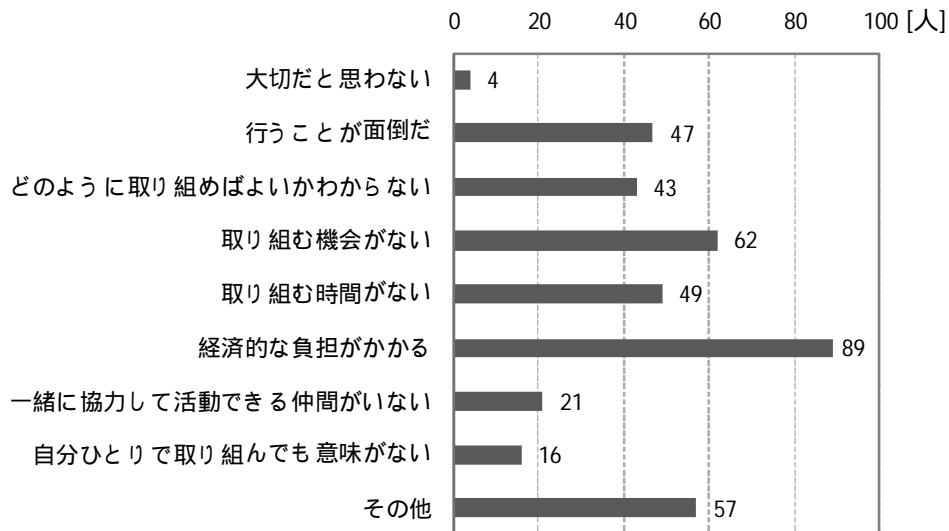
2008(平成20)年と2019(令和元)年を比較すると、「している」と「ときどきしている」の合計の割合は、「買い物には、マイバックを持参している。」が8.6%上昇し、次いで「運転時は不要なアイドリングや急発進はしないように努めている。」が7.1%上昇しています。

「環境問題や環境保全について、家族や友人と話し合っている。」が11.3%、「海水浴や釣り、自然の中でレクリエーションなど、糸魚川の自然と触れ合い親しんでいる。」が10.8%低下しています。



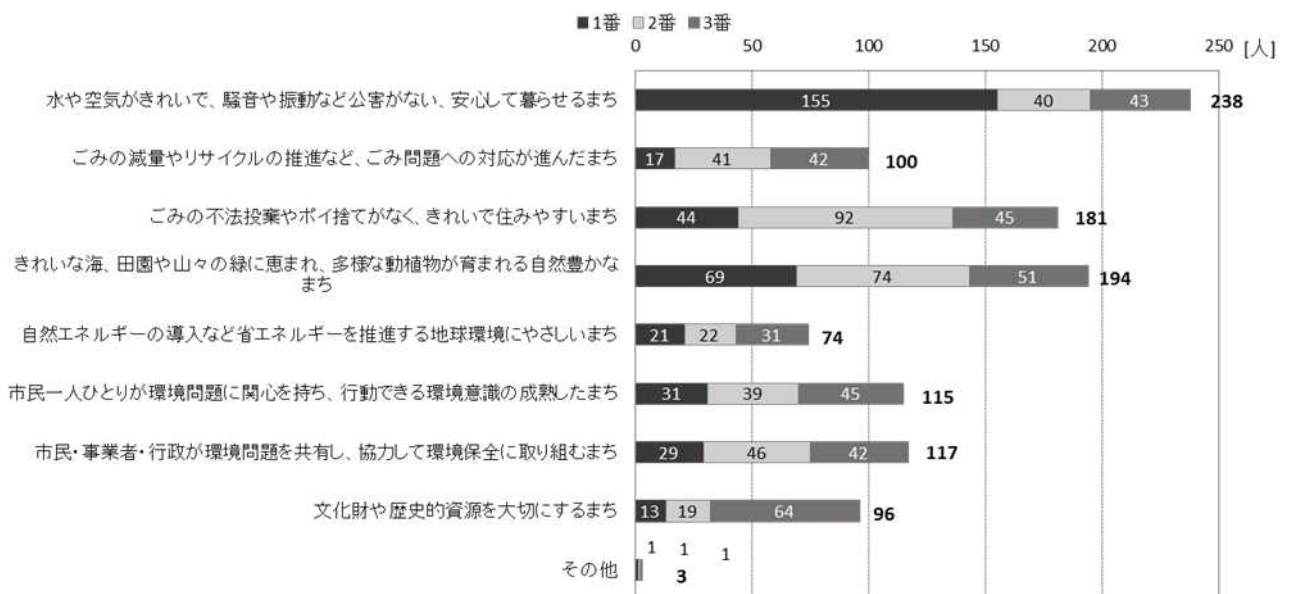
問7 環境にやさしい取り組みについて「今後も出来ない」と回答した理由

問6で1つでも「今後も出来ない」と回答した人の中で、出来ない理由として「経済的な負担がかかる」が89人と最も多く、次いで「取り組む機会がない」が62人、「その他」が57人と多くなりました。「その他」の回答の内容は「年齢や健康上の理由」が39人と多くなりました。



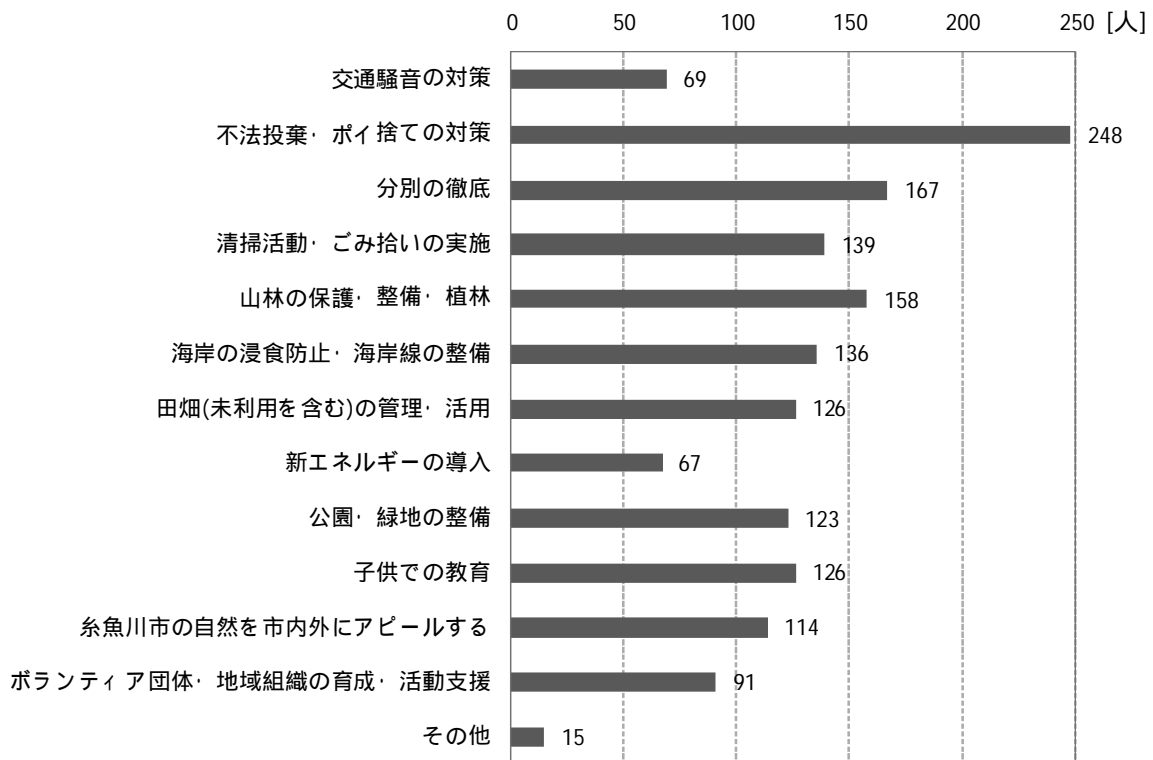
問8 望ましい環境の優先度

望ましい環境の優先度は、「水や空気がきれいで、騒音や振動など公害がない、安心して暮らせるまち」が238人と最も多く、1番にした割合も高かった。一方で「自然エネルギーの導入など省エネルギーを推進する地球環境にやさしいまち」が74人と最も少なくなりました。



問9 望ましい環境像の実現に必要なもの

望ましい環境像の実現に必要なものは、「不法投棄・ポイ捨ての対策」が248人と最も多く、次いで「分別の徹底」となりました。



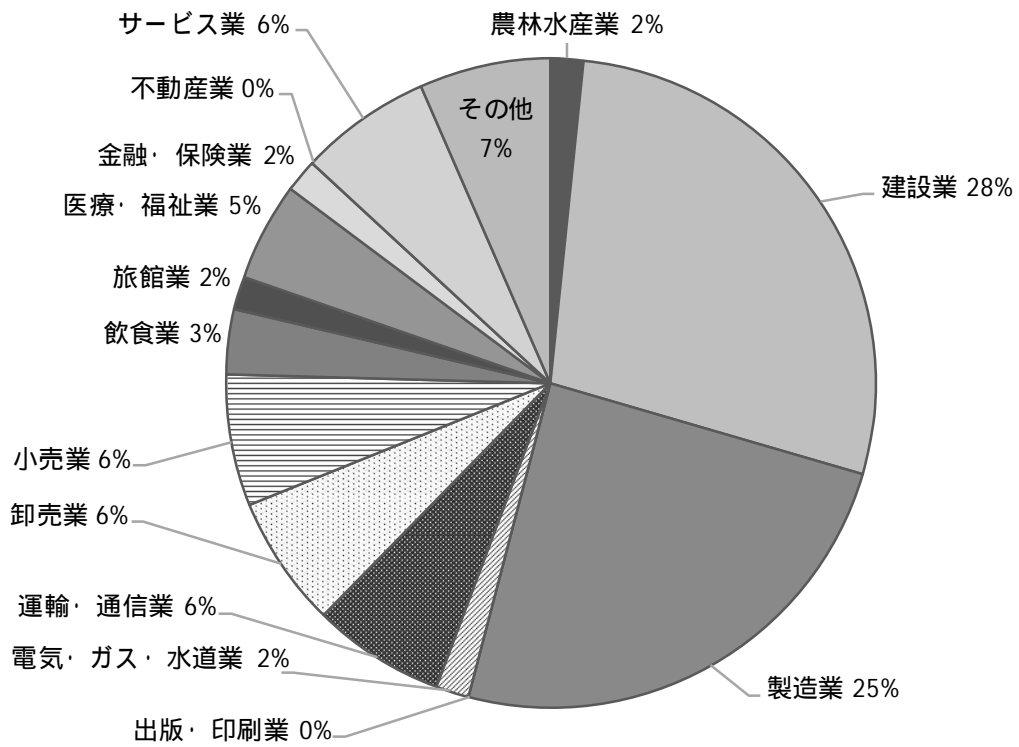
問10 環境保全について行政に望むこと

他の項目に比べて「廃棄物問題・循環型社会」と「開発問題・自然保護・生態系問題」に関する回答が多く、これらの項目について行政への要望が高いということがうかがえる結果となりました。

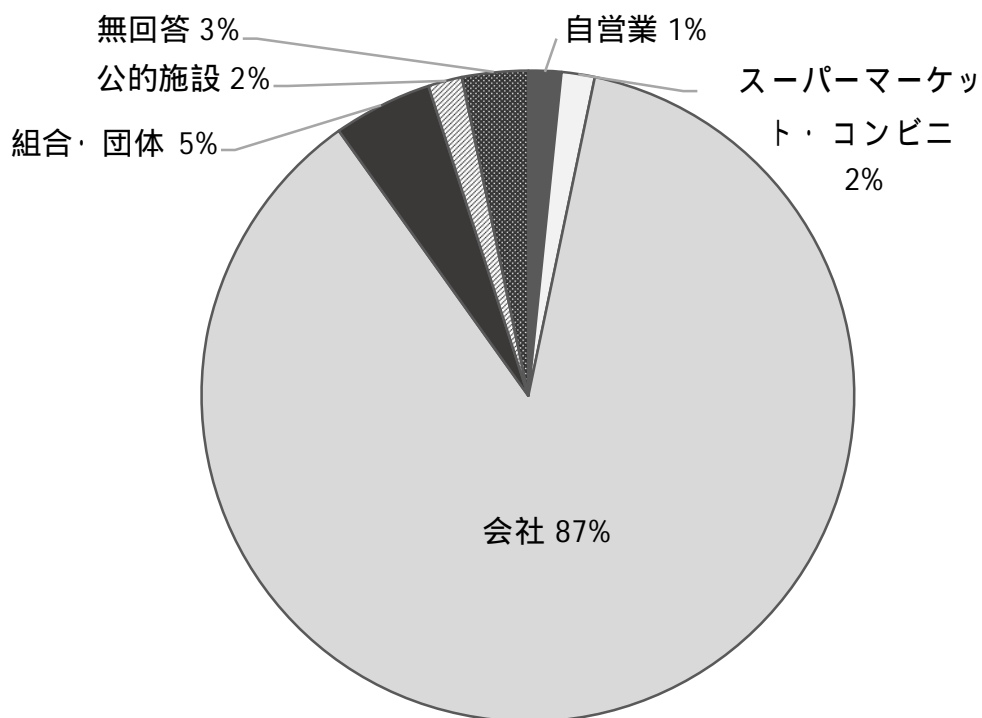
内容	回答数
荒廃した田畑や山林の整備・活用	7
空き家対策	5
市職員が率先して環境問題に取り組む	5
ポイ捨て対策	5
ごみの処理方法をよりPRする	3
市民への教育・啓発	3
少子高齢化対策	3
水質悪化対策	3
鳥獣害対策	3
道路の草刈り・街路樹の整備	3
市民や地区の意見・要望を反映させる	2
人口減少対策	2
分別をより細分化	2
豊かな自然を守り後世に残す	2

2 - 2 事業者アンケート調査の結果

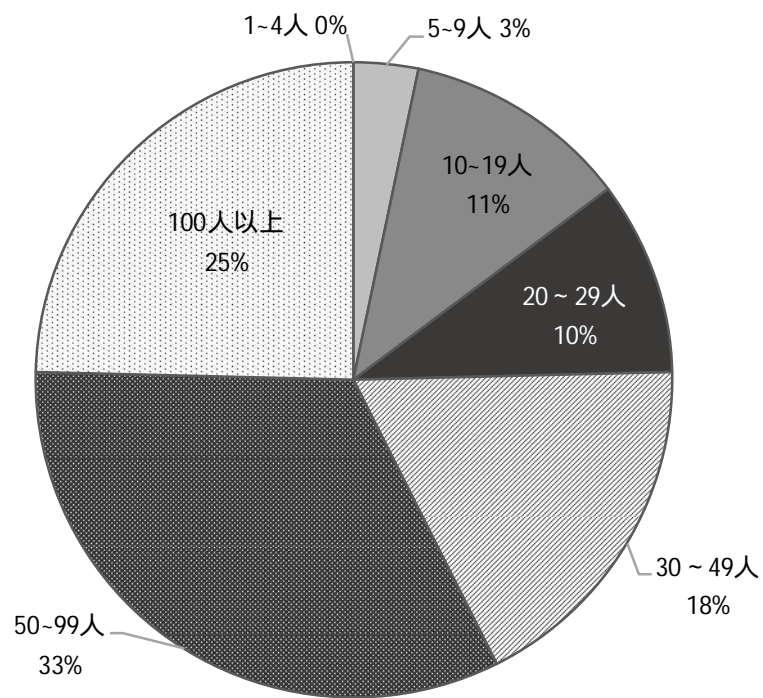
1) 事業種別



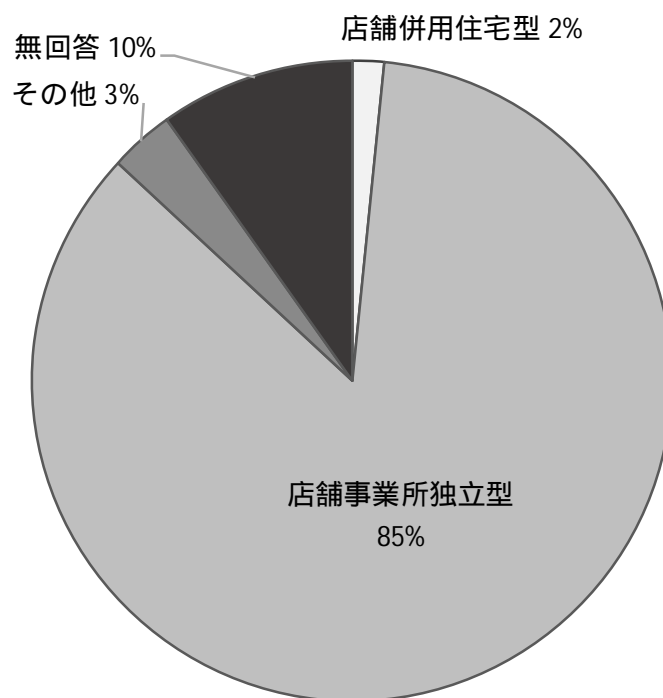
2) 事業区分



3) 従業者数

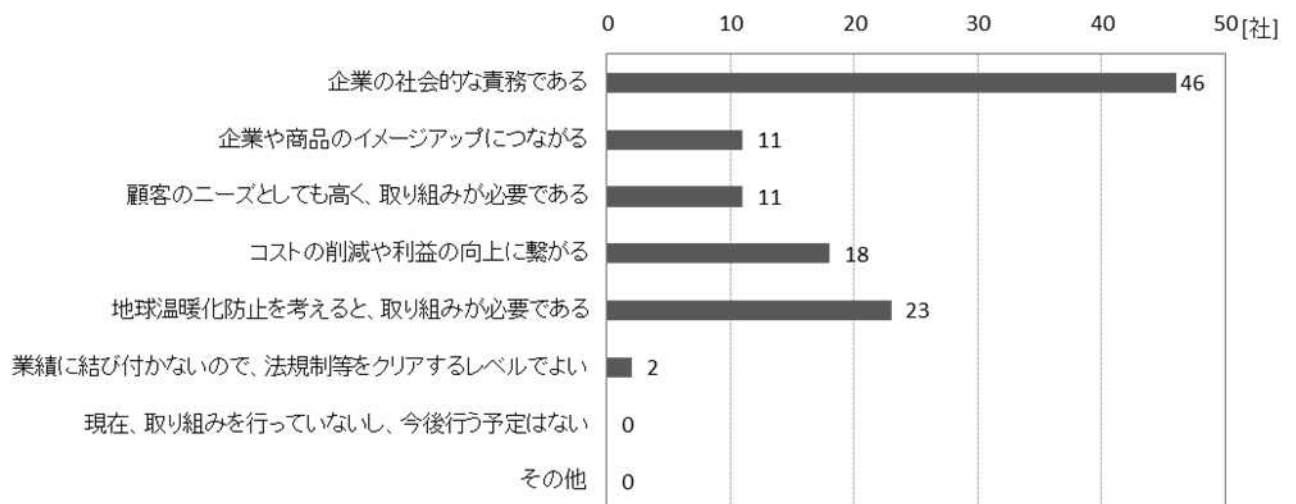


4) 形態



問2 環境配慮の取組みについての考え

事業者の考える環境配慮の取組みは、「企業の社会的な責務である」が46社と最も多く、次いで「地球温暖化防止を考えると、取組みが必要である」が23社と多くなりました。

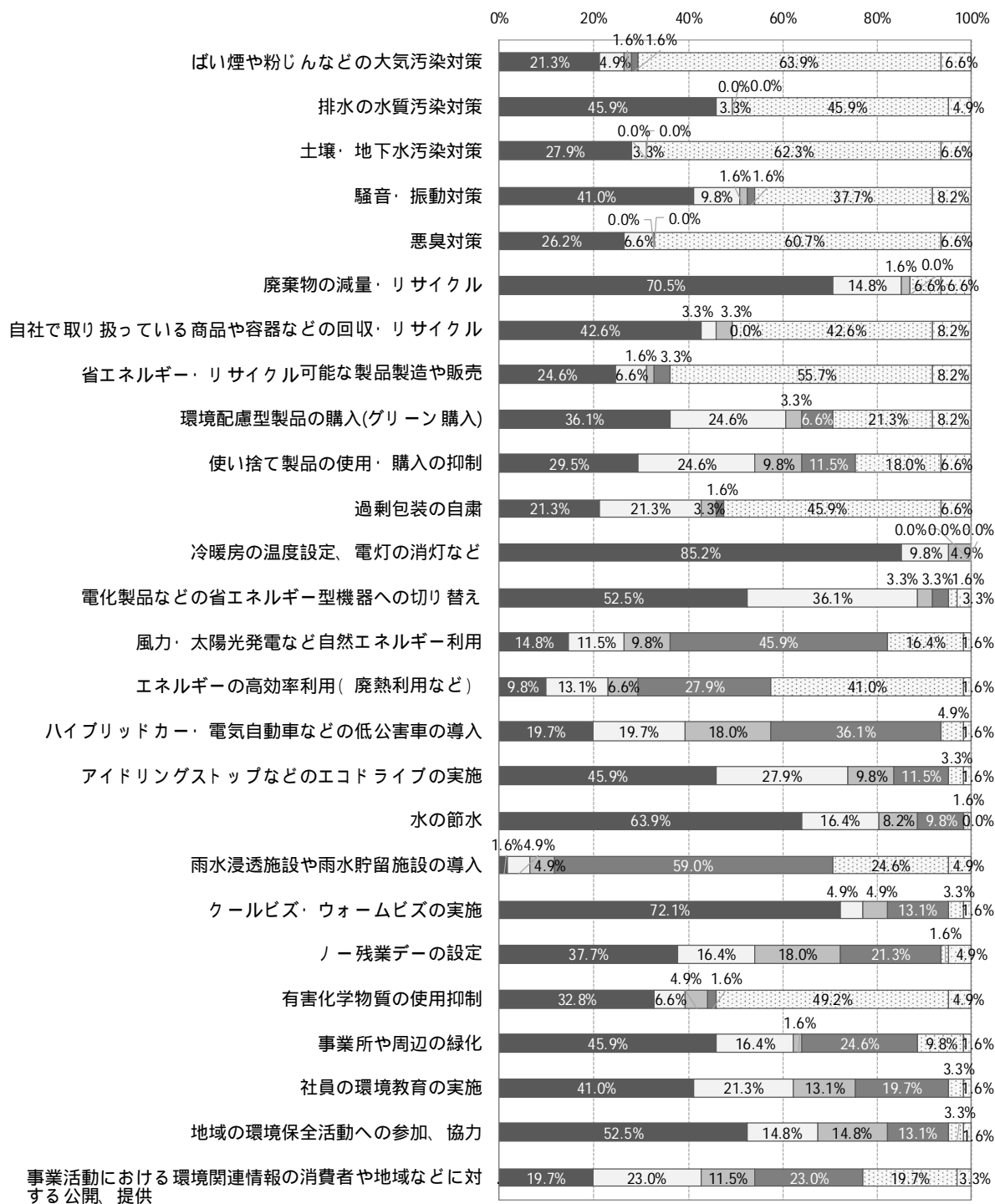


問3 環境保全のための対策の実施度

環境保全のための対策の実施度は、「実施している」の割合が「冷暖房の温度設定、電灯の消灯など」で85.2%と最も高く、次いで「廃棄物の減量・リサイクル」で70.5%となりました。

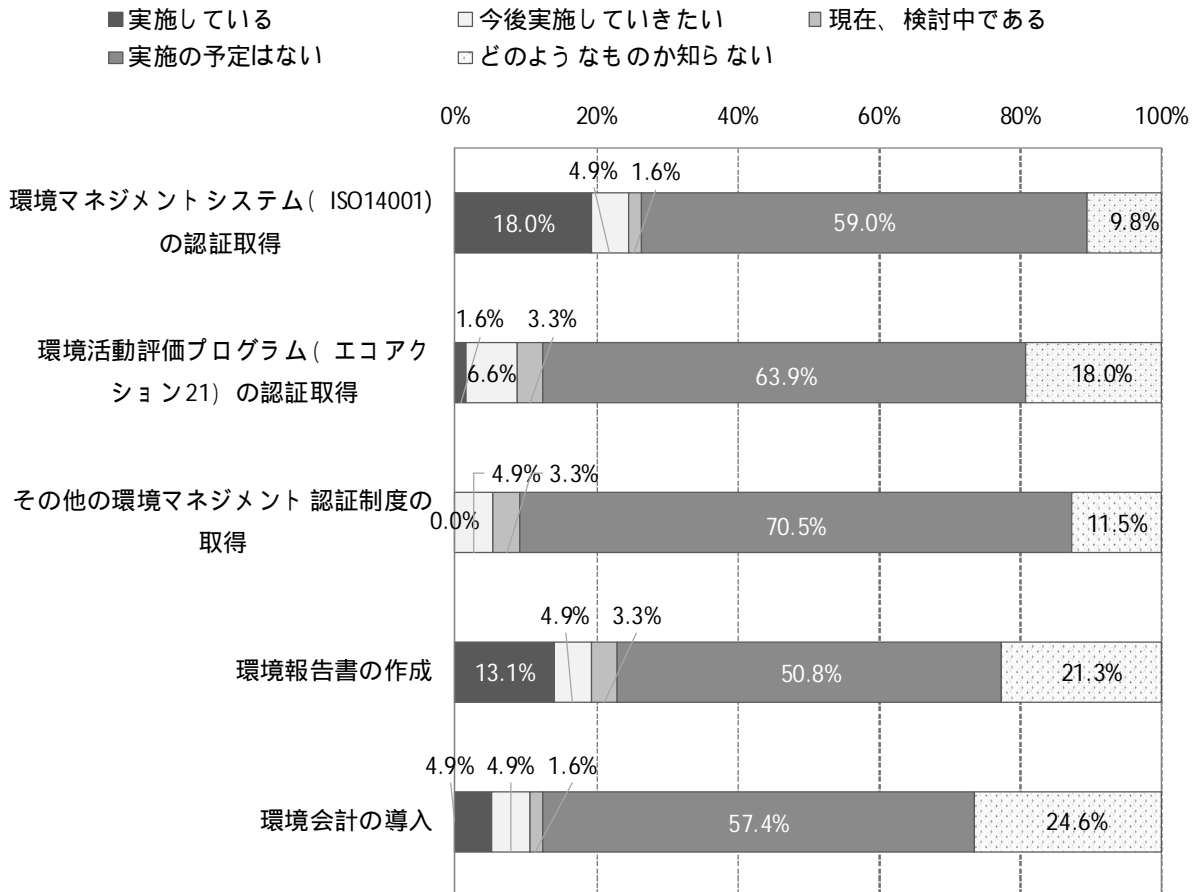
「雨水浸透施設や雨水貯留施設の導入」は1.6%と最も低くなりました。

■実施している □今後実施していきたい □現在、検討中である ■実施の予定はない □当事業所には該当しない □無回答



問4 環境配慮した経営方法の実施度

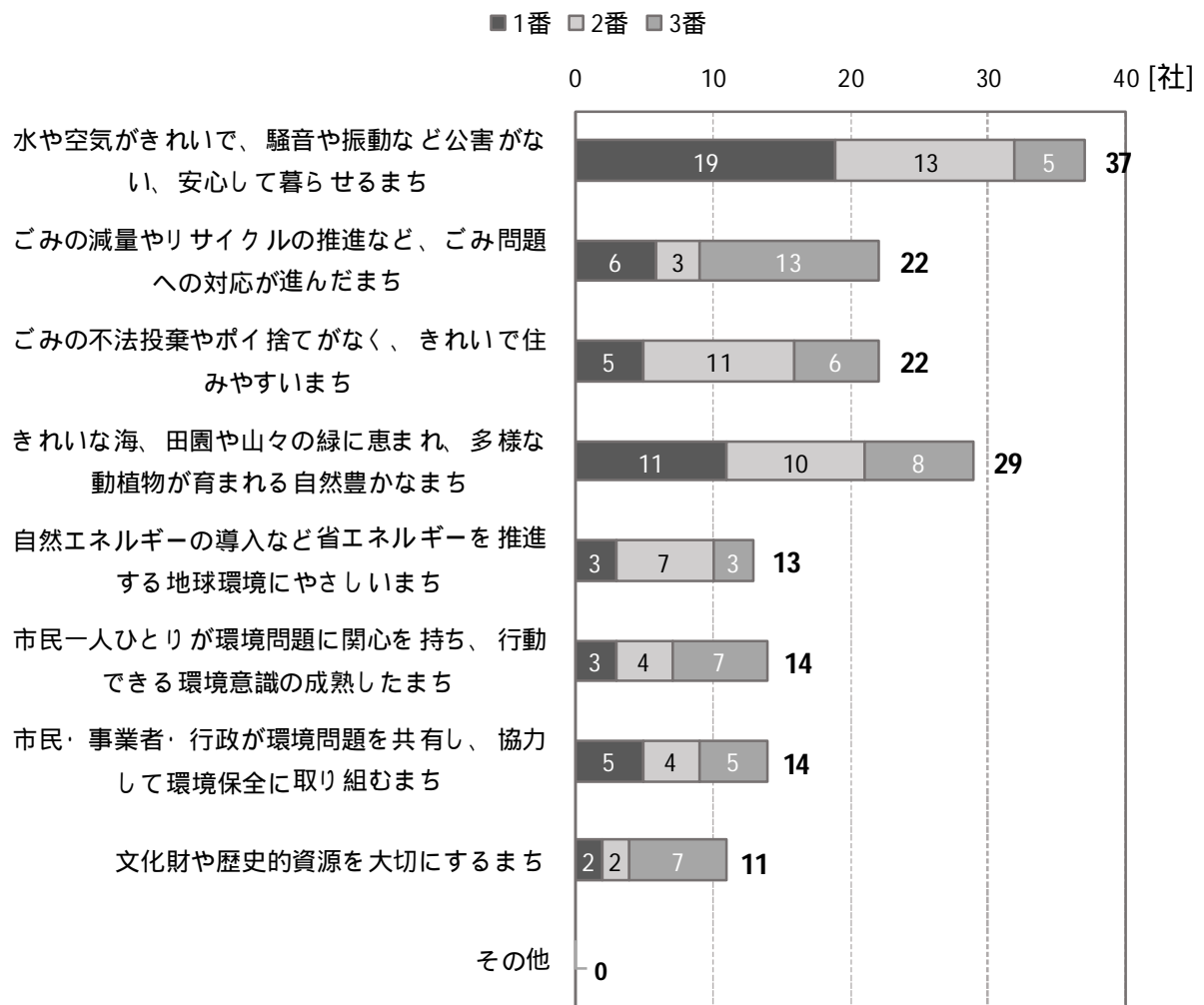
環境配慮した経営方法は、全項目で、「現在、検討中である」の割合が最も高くなり、「実施している」の中では、「環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証取得」、「環境報告書の作成」の順となりました。



問5 糸魚川市の望ましい環境像について

糸魚川市の望ましい環境像の優先度は、「水や空気がきれいで、騒音や振動など公害がない、安心して暮らせるまち」が37社と最も多く、1番にした割合も高くなりました。

一方で「文化財や歴史的資源を大切にするまち」が11社と最も少なくなりました。



問6 望んだまちにしていくために具体的に必要なこと（自由記載）

望んだまちにしていくために必要なことは、「市民一人ひとりの意識」が多く、次いで「行政のリーダーシップ」と「不法投棄の取り締まり」となりました。

内容	回答数
市民一人ひとりの意識	4
行政のリーダーシップ	2
不法投棄の取り締まり	2
小学校からの地域的な環境教育	1
糸魚川市環境基本条例の周知	1
市の「ISO 14001」の認定	1
水道水の水質向上	1
事業者へペナルティー制の導入	1
住民・行政・企業の連携	1
森林や農地の荒廃対策	1
小水力発電の導入	1
ジオパーク活動との調和	1

問7 環境保全について行政に望むこと（自由記載）

環境保全について行政に望むことは、「ごみ処理費用の詳細を公開」や「高能力焼却炉の導入」、「海岸・河川のプラごみ回収運動」など廃棄物問題に関する回答がありました。

内容	回答数
ごみ処理費用の詳細を公開	1
徹底した行政の指導と規制	1
高能力焼却炉の導入	1
海岸・河川のプラごみ回収運動	1
水稲田の次世代引継ぎ問題への対策	1
山間地の荒廃防止対策	1
緑の基本計画の策定	1
持続可能なまちづくり（持続可能性の評価項目）	1
放射性物質モニタリング	1